

平成 27 年(2015 年)版

# Yomo Yomo

ホントに

体力なら

～10代のあなたに～

きもち

みかけ



## 『「希望」という名の船にのって』

もりしたかつひと

森下一仁／著 きたむらさとし／画 ゴ布林書房 2010 年発行

12 歳のヒロシは、「希望」という船で生まれ育ち、まだ地球を見たことがない。船に暮らしているのは、謎の病原体から逃れ、地球から脱出した人々だった。ある日、ネズミを世話している水沢博士と出会ったことをきっかけに、船の中を探ったヒロシは思いもよらないものを見てしまう。失いかけた希望を取り戻す冒険が始まる。



# 心にいつも冒険を！



## 『宝探しトラジェディー』

きのしたはんた

木下半太／著 幻冬舎 2013 年発行

この物語は、超変人のパパにふりまわされつづけるぼくの愚痴だ。パパは昔、有名な冒険家だったのだけど、ただいま失業中。まともに働く気はこれっぽっちもない。ところがこの夏、大金持ちの老人から「宝を探して欲しい」という依頼が入った。できるだけパパとはかかわりを持ちたくないぼくも、ひょんなことから巻き込まれることに！



## 『かくれ山の冒険』

とみやすようこ  
富安陽子／著・画 PHP研究所 2000年発行

「ナアァーオォ」。木立ちに消えた黒猫に導かれるように森の奥の一軒家にたどりついたなお尚。そこは時間のない別世界「かくれ山」にある猫夫人（黒猫）のすみかだった。そこで、猫夫人の呪いで猫にされた少女や、夜ごとのえじき餌食になるネズミたちから猫婦人を倒すよう依頼を受ける。気弱な尚が呪いを解くためには、勇気と知恵が最大の武器となる。尚は元の世界に戻るのか？



## 『あきらめないこと、それが冒険だ』

エベレストに登るのも冒険、ゴミ拾いも冒険！』

のぐち けん  
野口 健／著 学習研究社 2006年発行



世界最高峰といわれる7つの山に登頂した野口 健さん。登山を通じて、命や仲間の大切さ、自然の怖さを知る。同時に山に捨てられた大量のゴミにも気づき、エベレストや富士山で清掃活動に取り組んでいることでも有名。本の中では「冒険の極意は、あきらめないで続けること」と熱く語る。

## 『舟をつくる』

せきのよしはる  
関野吉晴／監修・写真 前田次郎／文 徳間書店 2013年発行

自然から採ってきた材料だけで丸木舟をつくらう！砂鉄を集め製鉄し、工具をつくって木を切り倒す。縄や帆も手づくりで。人類がたどった海の道を舟に乗って渡ろう！そんな途方もないことをやりとげた探検家の関野さんたち。機械を使わず人の力で舟をつくりあげるすばらしさを迫力ある写真で綴る。



## 『シャーロット・ドイルの告白』

アヴィ／作 <sup>ちのみり</sup>茅野美ど里／訳 あすなろ書房 2010年発行

何の手違いか、私が乗ったアメリカ行きの船は、荒くれ者の船員ばかりの船だった。同乗するはずの人は誰もいない。船では、考えられないようなことばかり起こり、お嬢様育ちの私が水夫の姿で船員として働くことに。絶体絶命の危機の連続、ついには殺人の罪を着せられ、24時間以内に処刑されることになってしまうが…。



## 『宝島』

スティーヴンスン／作 <sup>かいほまさお</sup>海保真夫／訳 岩波書店 2000年発行



海辺の宿屋で客の老水夫が亡くなった。残された書類が宝の地図だとわかり、それを見つけた宿の息子ベンも宝探しを決めた医者たちと船旅に出ることになる。その船に乗り込んだコック・一本足のシルヴァーは実はおそろしい海賊だった。

裏切り、戦い、勇気、信頼。人のありようまでも考えさせられるハラハラドキドキの物語。

## 『銀河鉄道の夜』

宮沢賢治／作 <sup>たはらたづこ</sup>田原田鶴子／画 偕成社 2000年発行

ジョバンニは仕事と勉強と家事に追われ、毎日が精一杯だった。病気の母のために牛乳を買う途中に立ち寄った銀河のお祭りに見とれていると、汽車の音が聞こえてくる。ふと気がつくと、なぜか泣き出しそうな幼なじみのカムパネルラとともに、銀河の旅へと出発していたのだった。



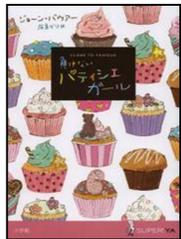


### 『給食のおにいさん』

遠藤彩見<sup>さいみ</sup>／著  
幻冬舎 2013年発行

輝かしい経歴をもつ凄腕料理人・佐々目は、一年間だけ小学校の給食調理員として働くことになった。不本意な転職だったが、やがて、腹黒チワワのような栄養士とともに、子どもたちの体と心の飢えを満たすという使命に目覚める。保健室登校生も、いつも空腹な訳あり少年も、無気力な元・人気子役も「みんな、口開けて待ってろ！」

保健室登校生も、いつも空腹な訳あり少年も、無気力な元・人気子役も「みんな、口開けて待ってろ！」



### 『負けなないパティシエガール』

ジョーン・パウアー<sup>ぱうあー</sup>／著  
灰島かり<sup>かい</sup>／訳  
小学館 2013年発行

ある日、ママと二人で家を飛び出し、新しい町で暮らすことになったフォスター。彼女の夢は大好きなお菓子作りでみんなの心をつかむ、パティシエガールになること。いろいろなことが起こる毎日だけど、お菓子を作ると心が軽くなる。そんな彼女の作るカップケーキが次第に評判になり、町に奇跡を生み出していく。

そんな彼女の作るカップケーキが次第に評判になり、町に奇跡を生み出していく。



### 『さかなをたべる』

(絵本すいぞくかん たんけん編1)  
なかのひろみ<sup>ひろみ</sup>／文  
ともながたろ<sup>たろ</sup>／絵  
アリス館 2006年発行

サカナ博士と一緒に、海をまるかじり探検してみよう。海は広いし、魚はうまい。鯛、鰯、鮪、鮭、鯖などの身近な魚たちの食べ方を、楽しいイラストで紹介。魚の特徴からさばき方まで、じっくり読んで味わえば、君も今日から魚通！

じっくり読んで味わえば、君も今日から魚通！



### 『きょうのごはん』

加藤休三<sup>けいさく</sup>／作  
偕成社 2012年発行

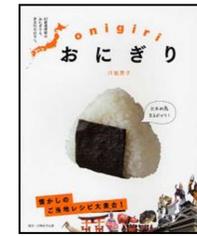
ネコの夕ごはんパトロール！？あっちこちの家をまわって「きょうのごはん」を紹介。こんがり焼けたさんま、カレーライスにオムライス、リアルに描かれているごはんはどれも本当においしそう。家族そろって「いただきます！」みんなの「きょうのごはん」はにやーに？



### 『まんが・アニメ・絵本に出てきた「あの料理」と「あのお菓子」を作る夢のキッチン』

吉田瑞子<sup>みずこ</sup>／著  
ブティック社 2012年発行

絵本や物語には食べ物がよく出てくる。その描写から「どんなものだろう」「どんな味なんだろう」「どうやって作るんだろう」と、想像がふくらむ。この本でそんな憧れの食べ物を作って食べてみよう。主人公が「うまっ！」と涙したその感動をあなたの舌で味わって。



### 『47都道府県のおにぎりと、米文化のはなし。おにぎり』

川越晃子<sup>あきこ</sup>／著  
グラフィック社 2011年発行

「えっ、こんなおにぎりがあるの！」この本で、各地域の名産品が具材となったおにぎりを見たらそう思うはず。形や大きさは、具材や米の種類によってさまざま。日本の食文化がぎゅっとつまったおにぎり。あなたも作ってみよう。



### 『お待ちしてます 下町和菓子 栗丸堂』

似鳥航一<sup>こういち</sup>／著  
メディアワークス文庫 2014年発行

浅草にある老舗和菓子屋「栗丸堂」。両親を交通事故で亡くし四代目として跡を継いだのは、大学を休学した栗田仁だった。幼い頃から跡取りとして育てられた仁は、職人としての確かな技術とセンスを持っていたが、餡の味が以前と違うと言われてしまう。下町の人情あふれる温かさとおいしい和菓子が楽しめる一冊。

下町の人情あふれる温かさとおいしい和菓子が楽しめる一冊。



### 『おいしく折ろう 食育おりがみ』

西田良子<sup>りょうこ</sup>・平野誠子<sup>まこと</sup>／著  
全国学校給食協会 2012年発行

野菜や魚などの食材から、天井やのり巻きなどのメニューやデザートまで、食べ物70種類が折り紙で作れる！折った果物をお皿の上に立てて飾ったり、組み合わせるとフルーツ盛りをしたり、自分なりのアレンジをすればもっと楽しい。食べ物について考えながら、家族みんなで楽しめる折り紙の本。



### 『2.43 清陰高校男子バレー部』

かべい 壁井ユカコ／著 集英社 2013年発行

バレーをするために生まれてきたかのような天才セッター、灰島（性格難あり）が転校してきて、黒羽の学校生活は一変。まともに活動すらしていなかった田舎の中学校バレー部が県大会優勝をめざすことに。そして高校では…。高さ2メートル43センチのネットをはさんで繰り広げられる少年たちのまっすぐで熱い物語。



### 『伝説のエンドーくん』

みと まはら三桃／著 小学館 2014年発行

創立百周年を迎える緑山中学校にやってきた新任の清水先生は、古いものから最近のものまで「エンドーくん」に関する落書きでいっぱいの校舎に驚く。生徒たちは「エンドーくん」をお守りのように思っているらしい。エンドーくんとは何者なのか？清水先生は、とうとうその正体にたどりつく。



## 『クラスメイツ』（前期・後期）

森 絵都<sup>えと</sup>／著 偕成社 2014年発行



北見第二中学校1年A組24人。全員が代わる代わる主人公になり、4月のクラス分けから修了式までの一年間を、それぞれの視点で語る。視点が変わると、同じ出来事でも違って見えてくる。友だち・けんか・初恋・不登校など、中学生の日常を鮮烈に描き出した作品。

## 『ジョン万次郎 ～海を渡ったサムライ魂～』

マーギー・プロイス<sup>かねはらみずひと</sup>／著 金原瑞人<sup>みずひと</sup>／訳  
集英社 2012年発行



日本開国に大きな<sup>こうけん</sup>貢献を果たした男は、一体どんな少年時代を過ごしたのか？14歳で漁に出て遭難し、アメリカに渡り、英語や航海術を修めて<sup>ほげい</sup>捕鯨船員になる。その後、帰国を決意するが……。歴史的人物の<sup>はらんぼんじょう</sup>波瀾万丈の少年時代、教科書には載っていない一面を描き出した物語。

## 『カンヴァスの向こう側』

少女が見た素顔の画家たち』

フィン・セッテホルム<sup>ひだにれいこ</sup>／著 梶谷玲子<sup>れいこ</sup>／訳  
評論社 2013年発行



美術館で名画に手を触れたことがきっかけで、リディアは過去の世界へとタイムスリップ。1658年のオランダでレンブラントの絵画制作に立ち会い、1505年のイタリアではダ・ヴィンチに頼まれてモデルになり、1937年のスペインではダリに指導を受ける。時代も国も<sup>ちょうえつ</sup>超越した旅の中で、少女は本当の自分を見つめなおす。

## 『パンとバラ ローザとジェイクの物語』

キャサリン・パターソン／作 おかもとはまえ 岡本浜江／訳  
偕成社 2012年発行



貧しい生活と父の暴力から逃れるため、盗みと野宿を繰り返すジェイク。「アメリカで生き残るには、勉強しかない」と信じるイタリア移民のローザ。労働者たちによるストライキで町が混乱する中、2人は出会う。このまま町に残るか、それとも安全な田舎に疎開するか？彼らは「姉弟」になりすまし、田舎行きの列車に乗り込む。



## 『さよならを待つふたりのために』

ジョン・グリーン／作 かねはらみずひと 金原瑞人・竹内 あかね 茜／訳  
岩波書店 2013年発行

16歳の少女ヘイゼルは、肺に甲状腺がんが転移し、酸素ボンベを手放せない。家に引きこもりがちだった彼女だが、こつにくしゅ骨肉腫で片脚を失った青年オーガスタスと出会い、恋をした。

死と隣り合わせという現状を冷静に見つめながら、日々精一杯に生きるふたりを鮮やかに描いた、等身大の青春ラブストーリー。

～編集後記～

気になるものはありましたか？  
読んでドキドキ！ワクワク！  
本の中へ冒険に出かけよう！



箕面市立図書館ホームページアドレス

<http://www.city.minoh.lg.jp/library/index.html>

編集・発行：箕面市立図書館 箕面市立小・中学校図書館

問い合わせ先：箕面市立中央図書館

TEL 072-722-4580

FAX 072-724-9697

発行日：平成27年（2015年）